



『イオンの森で1千本の苗を植樹』



綾町イオンの森での植樹活動は10月8日に行われ、イオン九州の社員や地元中学生など約250人が約1千本の照葉樹の苗を植樹しました。

この活動は、2013年からイオン環境財団、宮崎県、宮崎中央森林組合と協働で行っているもので、イオン環境財団が世界各地で取り組んでいる植樹活動の中でも、里地・里山再生のモデルケースとして注目されています。

植樹する樹種や本数は、50年後を見据え計画的に協議・検討されています。ここ数年は、周辺の日向夏ミカン畑に飛んでくるミツバチの生息環境を整えるため、花が咲く樹木を積極的に植えてきましたが、今回は、特に溪畔林構成種を中心に、より里山の風景にふさわしい樹種が選ばれています。

また、参加者に里山の恵みを体感してもらおうと、町猟友会による猪汁と猪の焼き肉のふるまいが行われたほか、工芸家の協力で初めて、草木染めのワークショップもありました。

植樹活動が進むイオンの森は、中学生の環境学習の場としても活用が進んでいます。一昨年からは、産学官

民のパートナーシップにより、先進技術を活用して樹木の調査が行われているところですが、昨年とは遊歩道が整備され自然散策を楽しめるようになっていきます。それを機に、散策マップが制作されたほか、イオンの森を紹介する大型パネルがイオンモール宮崎2階で常設展示されるなど、取り組みが広がっています。今後は、間伐と間伐材の活用が検討されており、イオンの森を中心とした社会・経済活動の推進に各方面からの期待が高まっています。



植樹に取り組む
地元の中学生



草木染めワークショップの様子

綾ユネスコエコパーク推進室・綾ユネスコエコパークセンター

☎77-3482 URL <https://ayabrcenter.jp>

※エコパークセンターは毎週日・月曜日および祝日休館

感染症の影響による休館などの情報はホームページで随時更新します

column

スミウキゴリ

ハゼの仲間で、大きさは8〜15cm程度、口が大きく水生昆虫や甲殻類などを食べる肉食性の魚です。川で暮らして産卵し、稚魚はふ化すると一度海へ下ります。しばらく海で暮らした後、川へ戻ってくるという生活サイクルを持っています。

町内では大きな河川で普通に見られた魚ですが、最近では河川環境の悪化のためかほとんど確認できていません。県内各地でも数を減らしている魚とされており、海から川、山までをつなぐ連続した水辺の環境を守ることが、こうした生き物の生活にとっていかに重要なことなのかを、あらためて思い知らされます。

